

# 医学と生化学

科目責任者 杉本博之  
学年・学期 1学年・2学期

## I. 前 文

日本の大学では戦後の大学教育において「一般教養」が制度化され、現代では「学士課程において、人文科学，社会科学，自然科学の基礎分野を横断的に教育する教育プログラム」とされている。皆さんは医学の専門家となることは勿論，幅広い教養を備えた知識人になることが要求されている。そこで医学部初年次においては，長期的な視野に立ち，生涯にわたって学び続けて医療人としての基盤形成に繋がるようなテーマを，本科目「人文・自然選択Ⅱ」「医学と生化学」において展開している。個々に興味を喚起された分野を自由に学ぶことで，優れた医療人としての基盤が形成されることを期待する。

## II. 担当教員

学内准教授	伊藤雅彦	生化学
学内准教授	堀端博康	生化学
助 教	佐藤元康	生化学
助 教	安戸博美	生化学
助 教	清水裕晶	生化学
非常勤講師	三橋里美	聖マリアンナ医科大学 脳神経内科
	堂前真理子	

## III. 一般学習目標

- 1) 教養を深める。
- 2) 社会・自然に対する幅広い視野を醸成する。
- 3) 論理的思考能力を伸ばす。
- 4) 持続的な自己学習の習慣を身につけ，問題解決能力を伸長させる。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 幅広い教養を深める。
- 2) 論理的な思考法を理解する。
- 3) 調査・研究に参画し，研究の現場（最先端）に触れる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）  
2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	8	23	水	5	がんと遺伝子	安戸博美	1
2		30	水	4	感染症の糖鎖生物学	堀端博康	1
3	9	6	水	4	生体バリアの維持と破綻のメカニズム	伊藤雅彦	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
4	9	13	水	4	オートファジーの生理的役割	佐藤元康	1
5		27	水	4	内分泌の生化学	清水裕晶	1
6	10	4	水	4	病気と健康を理解するためのゲノム解析	三橋里美	1
7		11	水	5	個体のホメオスタシスと脂質代謝	堂前真理子	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各担当者ごとに、授業態度、レポート等の課題により総合的に判断する。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

各担当者から指示される。

#### VIII. 質問への対応方法

各担当者から指示される。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習内容について各担当者から，LMS等により全体または個別にフィードバックする。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

各担当者から指示される。

シラバス別冊に記載。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。